

# 地場産業の実態



## 実態調査の狙い

昭和五十五年におきまして、県では県内の地場産業の実態調査を行ないました。この狙いは、従来の中小企業施策の中心は、業種別の振興あるいは個別企業の振興といった面でありました。すなわち、地域という視点が欠落していたわけでありました。昭和四十九年のオイルショック後の日本経済ひいては地域の経済は、従来の高度成長と比して低成長あるいは安定成長を余儀なくされているわけでありました。このような経済環境の中で、とくに重要視されますのが、地域に強く根付いた地場産業の育成であります。しかし、ここで重要なのは、従来のように高い成長率を狙った地場産業の振興ではなく（可能であるならば当然高い成長を狙ってもよい）、地域の関連産業との種々の連けい等を図りながら、地場産業だけでなく、関連産業を含めて少しでも地域の経済を底上げしようとする

## 調査結果

ものであります。

なお、ここで言う地場産業とは、地元資本をベースとする中小企業が一定の地域（概ね県内）に集積しつつ、地域内に産出する物産等を主原料とし、又は、蓄積された経営資源（技術、労働力、資本等）を活用して他地域から原材料を移入し、それを加工し、その製品の販売先として、その地域だけに販売されているのではなく、その地域外へも販売をしているものを言います。

したがって、熊本県内の主な地場産業を列挙しますと、八代地区の畳表製造業、人吉球磨地区の球磨焼酎、牛深地区の水産加工（とくに煮干し製品製造業）、有明海沿岸ののり製造業、県内全域で製造加工される製材業、製茶業、缶詰製造業、セメント瓦製造業等があげられます。

### 一、県内地場産業の特質

① 熊本県地場産業の地位  
熊本県の地場産業を肉製品・畜産食料

二〇％を超えている業種は、海そう加工業等三業種にすぎません。

#### (イ) 業界の将来性

地場産業の経営者に対して、自社の属する業界の将来性について質問した結果は、「現在よりも発展する」（一八・六％）「現在と変わらない」（四四・九％）「現在よりも下る」（三六・五％）となっており、業界の将来性については、あまり明るい見通しを持っていないと言えます。このような中でも、海そう加工業、缶詰製造業、野菜漬物製造業、焼酎製造業、畜産食料品製造業の経営者が他の業界と比較して将来性について明るい見通しを持っています。

#### (ロ) 今後の経営方針

今後の経営方針についての回答で、「生産を拡大していく」と積極的姿勢を示している経営者が多い業界は、海そう加工業、缶詰製造業、野菜漬物製造業、焼酎製造業、畜産食料品製造業等であり、セメント瓦製造業、船舶製造業については、業界を取りまく経営環境が悪いことから、他の業界と比べてどちらかと言えは消極的であります。

#### (ハ) 広告・宣伝

広告・宣伝については、地場産業の経

菓子製造業、清酒製造業、焼酎製造業、製茶製造業、めん類製造業、製材業、木材チップ、セメント製品製造業（セメント瓦、コンクリート製品、生コン）、船舶製造業、い草加工業、建設用金属製品製造業の十九業種としてとらえた場合における熊本県の工業に占める割合を見ますと、事業所数で四三・三％、従業者数で二九・四％、出荷額で二六・二％となり、事業所数での割合よりも出荷額及び従業者数の占める割合が低く、熊本県内の地場産業は一事業所当りの規模が小さくかつ一従業者当りの出荷額も低いということが言えます。

### ② 地場産業の製品販売市場

経営実態調査を実施した十八業種の製品販売市場は全体で見ますと、四七・五％が県内への出荷で約五割を占めます。又、熊本以外の九州で二二％、関西地区一〇％、関東地区一四％、その他六％となつています。これを業種ごとにみますと、県内を主な市場とする業種は、水産練製品製造業、野菜漬物製造業、味噌・しょうゆ製造業、製茶製造業、清酒製造業、焼酎製造業、コンクリート製品製造業、瓦製造業、菓子製造業、木材チップ製造業等であります。一方、県外を主な

市場とする業種は、缶詰・びん詰製造業（アサリ、みかん、くり、たけのこ）、海そう加工業（海苔、昆布等）、麵類製造業（即席麵）等であります。又、海外市場への輸出を行っている地場産業は、缶詰製造業があり、その品目は、あさり貝缶詰、みかん缶詰であり、全体的に見るとその業種は少ない。（図一参照）

### ③ 経営者アンケート調査

#### (イ) 創業年

地場産業の創業年をみますと、その六三％が昭和二十一年～四十九年の間に事業を始めており、その中でもとくに伝統がある業種は、球磨焼酎、清酒、味噌・しょうゆ、粘土瓦製造業で明治以前に事業を始めている企業が多く見られます。（以下図二参照）

#### (ロ) 従業員の性別、年齢別構成

性別構成は、全体で見ますと、女性の割合が五三％と過半数を占めています。男性の割合が高い業種は、船舶製造業、味噌・しょうゆ製造業、清酒製造業、コンクリート製品製造業等八業種であります。又、年齢別構成を見ますと、全体では、四十歳～五十歳未満の従業員が最も多く三四％を占め、三十歳未満は一七％であります。三十歳未満の従業員が

営者の九〇％が不足していると回答してあります。今後の大きな課題であります。

#### ④ 地域における地場産業

熊本県内の各地域にどのような地場産業があるのかを、各県事務所管内ごとに見ますと次のようなものがあります。

(イ) 玉名事務所管内  
あさり貝加工（佃煮、缶詰）、海苔加工、たけのこ缶詰、石灰・炭カル製造、南関そうめん、菓子製造（高瀬あめ）。

(ロ) 鹿本事務所管内  
清酒製造業、野菜漬物製造業（生大根漬）、たけのこ缶詰、製茶製造業。

(ハ) 菊池事務所管内  
缶詰製造業（みかん、くり）、味噌・しょうゆ製造業、生糸製造業。

(ニ) 阿蘇事務所管内  
野菜漬物製造業（たかな漬、生大根漬等）、製材業（杉、松）、製茶製造業、縫製加工業、冷凍野菜（さといも）。

(ホ) 上益城事務所管内  
竹製品製造業、製材業、粘土互製造業、砕石業、コンクリート製品製造業、製茶製造業。

#### (ヘ) 熊飽事務所管内

缶詰製造業（あさり、みかん、くり、たけのこ等）、水産練製品製造業、野菜